

資料編

(1) 新市の概況

1) 位置・地勢・気候・面積

新市は、三重県の中北部に位置し、県内の主要都市である津市や四日市市、鈴鹿市からは20km圏内に、名古屋市から約50km、大阪から約100kmに位置しています。

新市の北西部には、標高500mから900m前後の鈴鹿の山々が南北に走り、そこから東方面にかけては、傾斜面の丘陵地や台地が形成され、伊勢平野へと続いています。本地域中央部には、加太川や安楽川を支流とする鈴鹿川と中ノ川が東西に流れ、伊勢湾へと注いでいます。

新市の年間平均気温は15.0、冬季(1月)の平均気温も5.0と温暖で暮らしやすい気候となっています(平成14年 津地方気象台亀山観測所資料)。

総面積は190.91km²であり、東西方向の延長は約21km、南北方向の延長は約17kmです(国土交通省国土地理院「平成13年全国都道府県市区町村別面積調」)。

地目別民有地割合は、山林が52.0%と最も多く、次いで、田畑27.3%、宅地10.9%、その他9.8%となっており、三重県内13市の地目別面積合計値の割合(山林41.6%、田畑33.0%、宅地18.5%、その他6.9%)と比較して、山林が多く、宅地が少ない構成となっています(平成14年 三重県地域振興部資料)。

図 1-1 三重県における新市の位置



2) 歴史

新市の歴史は古く、古代、鈴鹿の関は、越前の愛発、美濃の不破とともに日本三関と呼ばれ、都と東国を結ぶ交通の要衝として栄えてきました。

江戸時代に入ると、亀山宿、関宿、坂下宿は東海道の宿場町としてにぎわいました。中でも関宿は、西の追分で鈴鹿峠越えの東海道と加太越えの大和・伊賀街道が、東の追分で東海道と伊勢別街道が、それぞれ分岐していたため、参勤交代や伊勢参りなど、多くの人やものが行き交いました。また、亀山宿では、亀山城を中心としたまちが形成されたことから、城下町特有のまちとなり、現在の中心市街地の基礎となっています。

明治時代の中頃には、関西鉄道（現関西本線）と参宮鉄道（現紀勢本線）が相次いで開通し国有化されたことから、亀山は両線が分岐する鉄道のまちとして発展してきました。

一方、道路については東海道が国道1号として整備されましたが、東海道新幹線や名神高速道路など第一国土軸が整備されたため、国土の主軸から外れ、緩やかな成長を遂げるにとどまってきました。しかし、東名阪自動車道、近畿自動車道伊勢線が整備されてからは、名阪国道や国道1号とも結節して、企業が立地し内陸産業都市として発展してきました。

このように、新市はそれぞれの時代を通して交通の結節点としての役割を担ってきました。今後はさらに、事業が推進されている第二名神高速道路、また、リニア中央新幹線構想による県内駅誘致など更なる結節点としての飛躍が期待できます。

新市の沿革については、昭和29年（1954年）まで、この地域は亀山町、昼生村、井田川村、川崎村、野登村、白川村、神辺村、関町、加太村、坂下村の2町8村から構成されていました。

昭和29年10月に亀山町と昼生村、井田川村、川崎村、野登村が合併し、亀山市が新設され、その後、一部が鈴鹿市へ編入し、新たに白川村、神辺村の一部や芸濃町楠平尾を編入し、現在の亀山市の区域となりました。

関町については、昭和30年2月に関町に白川村、神辺村の一部を編入し、昭和30年4月に関町と加太村、坂下村が合併して関町が新設され、その後、一部が伊賀町へ編入し、新たに芸濃町萩原、福德を編入して現在の関町の区域となり、今日に至っています。



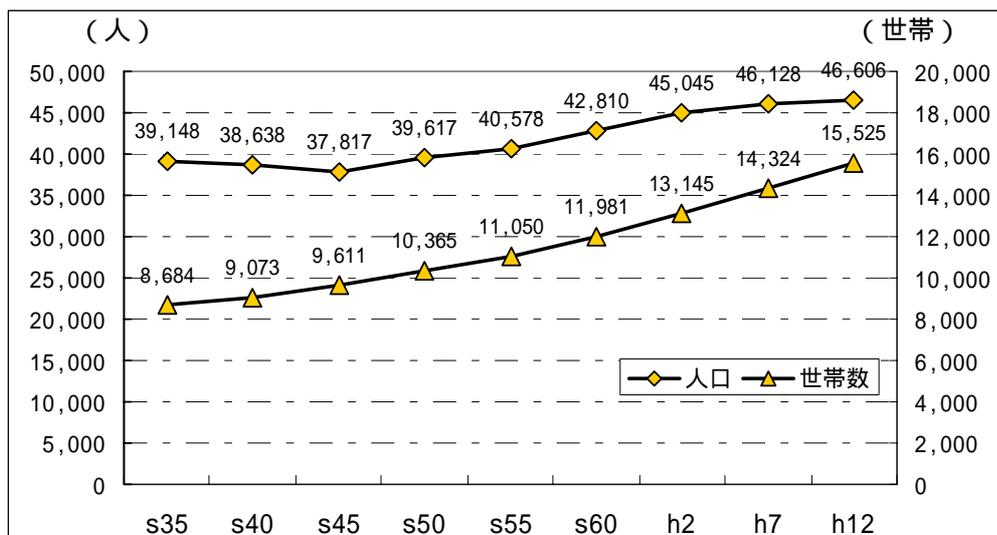
3) 人口・世帯数

新市の人口は、平成12年国勢調査によると46,606人であり、昭和35年以降、漸減の傾向にありましたが、昭和45年以降、増加率は鈍化しつつも増加し続けています。

年齢別人口割合は、年少人口（0から14歳）が15.1%、生産年齢人口（15歳から64歳）が65.7%、老年人口（65歳以上）が19.2%であり、三重県全体（年少人口：14.6%、生産年齢人口67.9%、老年人口17.3%）と比較して、生産年齢人口割合が低く、老年人口割合が高い構成となっています。平成2年と比較して、年少人口が4.1ポイント減少する一方、老年人口が4.9ポイント増加し、少子高齢化が進んでいます。

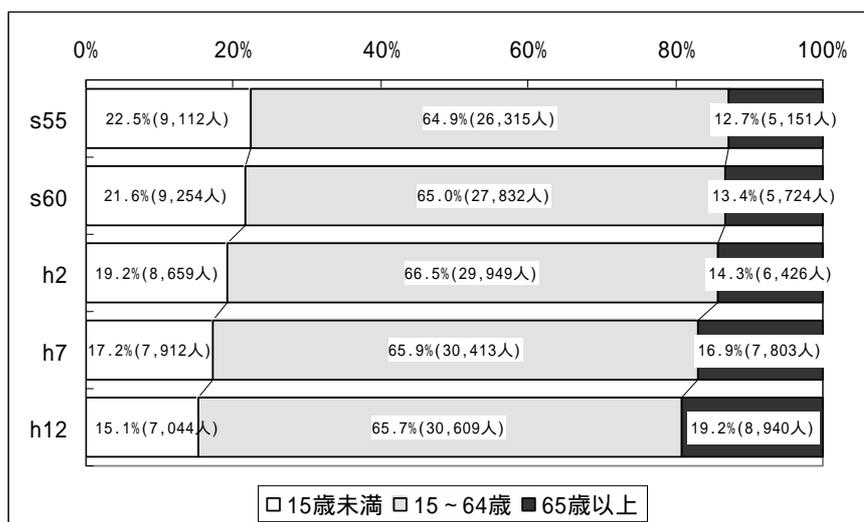
また、世帯数は15,525世帯であり、一世帯あたりの平均世帯人員は3.00人となっています。

図1-2 人口・世帯数



資料 「国勢調査」総務省統計局

図1-3 年齢3階級別人口割合

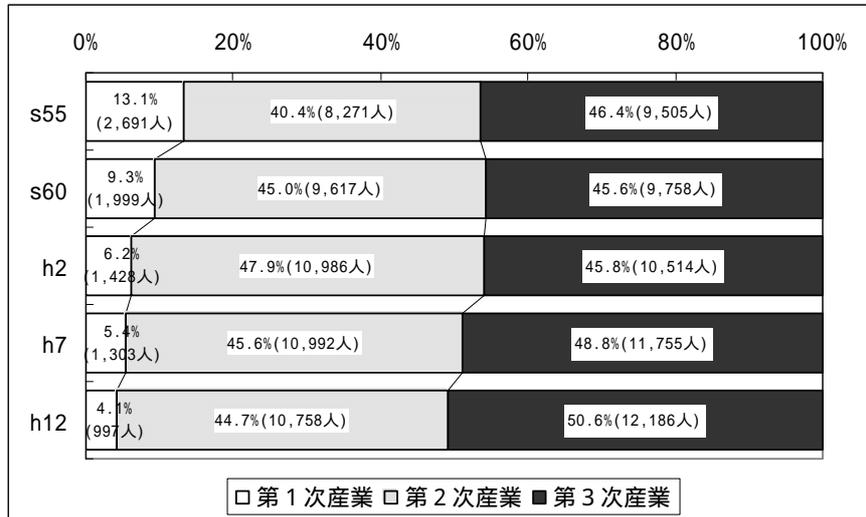


資料 「国勢調査」総務省統計局

4) 産業 就業構造

新市の産業別就業人口は、第1次産業が4.1%、第2次産業が44.7%、第3次産業が50.6%であり、県平均と比較して、第2次産業の占める割合が非常に高くなっています。経年的にみて、第1次産業就業者数が減少しており、第3次産業就業者の割合が増加しています。

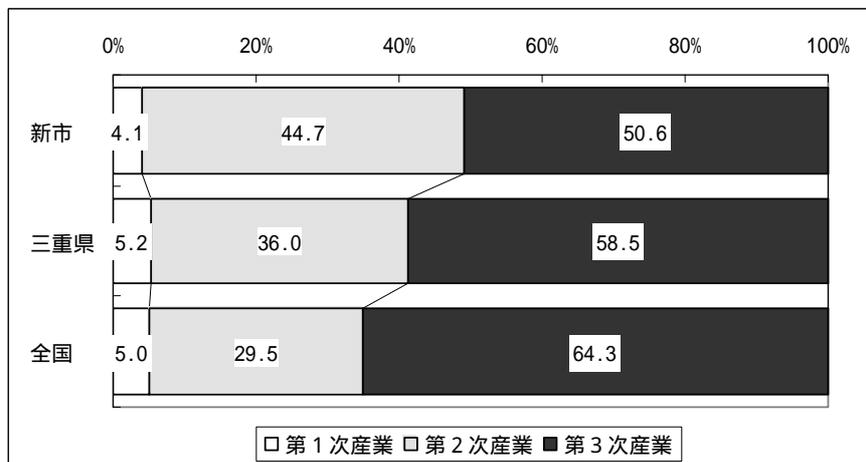
図 1-4 産業別就業人口



資料 「国勢調査」総務省統計局

「分類不能の産業」を除いているため、合計が100%にならない場合がある。

図 1-5 産業別就業人口



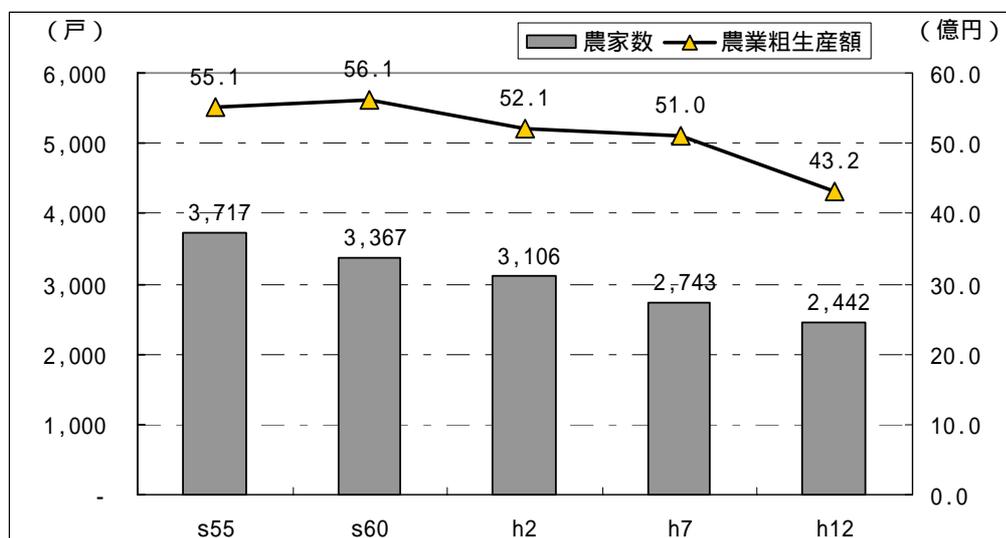
資料 「平成12年国勢調査」総務省統計局

「分類不能の産業」を除いているため、合計が100%にならない場合がある。

農業

新市の農業は、農業従事者の減少・高齢化、輸入農産物との競争により、農業粗生産額は減少傾向を示しており、平成12年において43.2億円となっています。鈴鹿山脈からの清水と温暖な気候により、お茶の生産が盛んであり、県内第3位の生産量をあげています。

図 1-6 農家数、農業粗生産額の推移

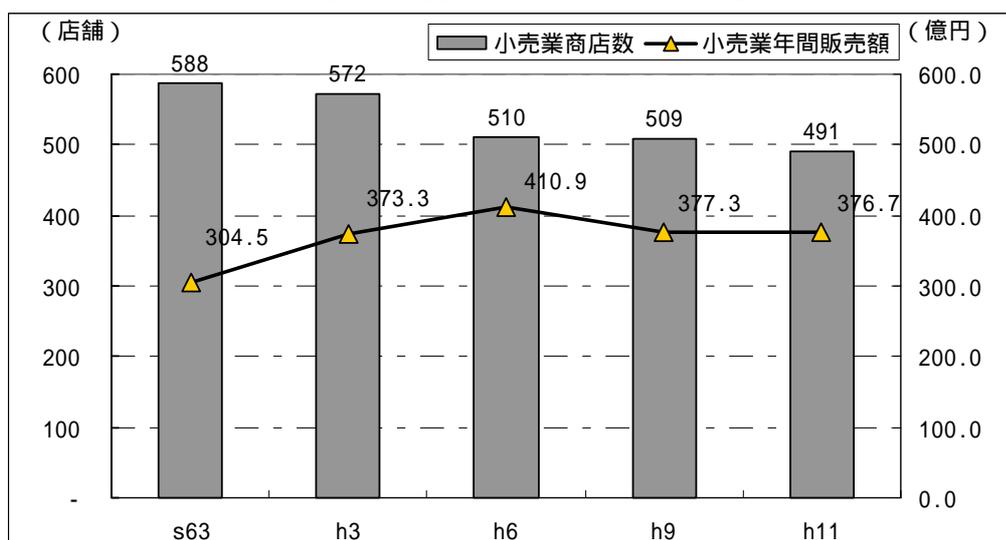


資料 「世界農林業センサス」、「生産農業所得統計」東海農政局三重統計情報事務所

商業

新市の商業は、近年、小売業商店数、年間販売額ともに減少傾向を示しており、平成11年において小売業商店数は491店舗、年間販売額は376.7億円となっています。近隣市町への大規模店舗の進出が大きく影響しているといえます。

図 1-7 小売業商店数、年間販売額の推移

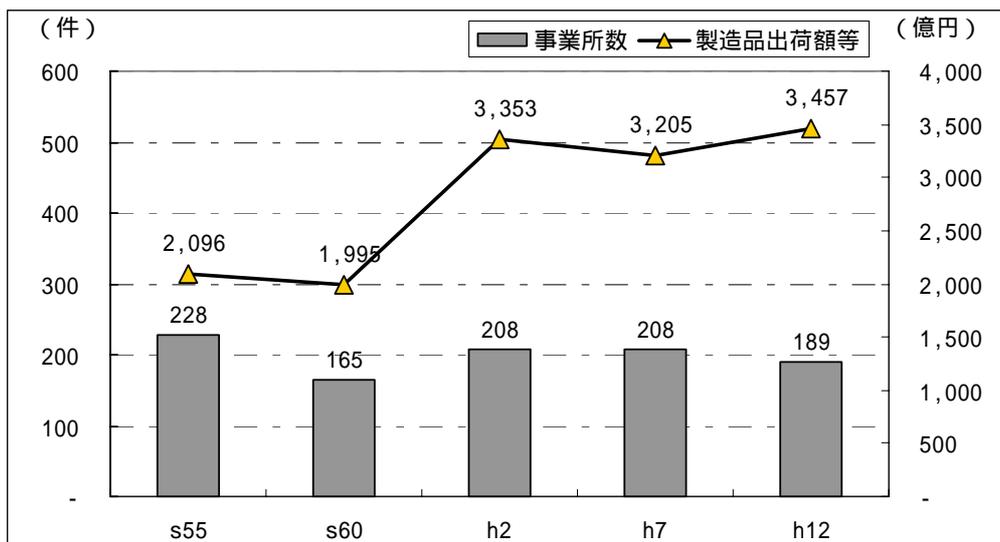


資料 「三重の商業」総合企画局統計調査課

工業

新市の工業は、高度経済成長とともに、高速交通網の整備によって大規模な工場や工業団地が整備され、大きく発展してきました。平成 12 年における製造品出荷額は、3,457 億円であり、人口一人あたりに換算すると、県内 13 市中 2 位となっています。業種別製造品出荷額をみると、非鉄金属製品や輸送機械機器、電気機械機器などの割合が高くなっています。また、平成 14 年には液晶産業や関連企業が立地したことなど、今後、県内外を代表する新産業拠点としての役割を担っていくことが期待されています。

図 1-8 事業所数、製造品出荷額等の推移



資料 「三重の工業」総合企画局統計調査課

(2) 新市の人口見通し

新市の将来人口は、自然的・社会的要因や、新規産業の立地をはじめとする産業振興や住宅開発などの政策的要因を加えて、試算しました(図2-1、図2-2)。

平成12年の46,606人から平成35年まで少しずつ増加し、平成35年には49,393人となります。このため、新市の目標人口は50,000人とします。

年齢3階級別人口については、年少人口(15歳未満)は減少しつづけ、老年人口(65歳以上)は増加しつづける、少子化・高齢化の傾向が続き、平成35年において、年少人口(15歳未満)は13.5%、生産年齢人口(15~64歳)は61.6%、老年人口(65歳以上)24.9%となる見通しです。

図2-1 新市の人口見通し

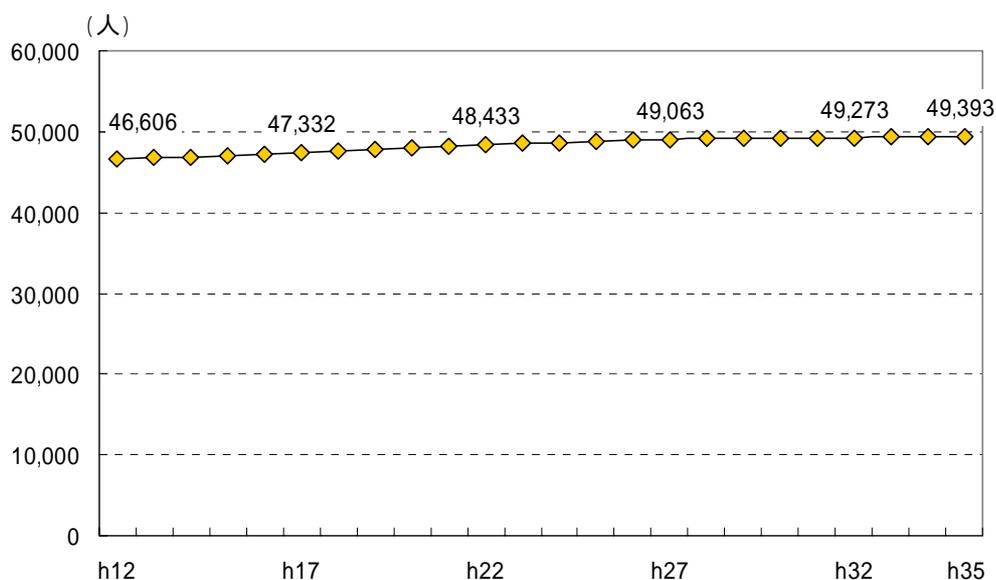
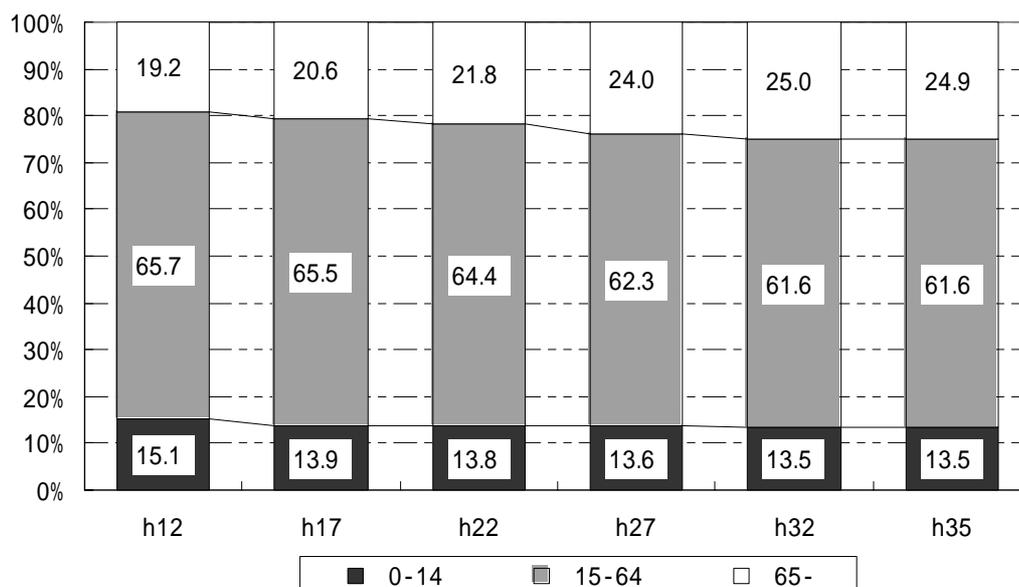


図2-2 年齢3階級別人口の見通し



(3) 市民からの意見

本計画「新市まちづくり計画」を策定するにあたり、できるだけ多くの市民の皆様からご意見をいただくために、「新市まちづくり住民意向調査」、「新市将来構想策定懇話会」、「新市将来構想公聴会～タウンミーティング～」、「新市のまちづくりを語る会」を開催しました。寄せられたご意見は多分野にわたり、計画策定に反映させていただきました。

1) 新市まちづくり住民意向調査

新市将来構想の策定において、新市のまちづくりに対する住民の意向を把握し、得られた結果を反映することを目的として、下記のように住民意向調査を実施しました。

その中から、主な質問の結果をまとめました。

【調査の方法】

調査対象地域	亀山市及び関町 全域
調査対象者	亀山市及び関町に在住の18歳以上の方
調査期間	平成15年4月25日～平成15年5月9日
サンプル数	2,500人
サンプル抽出法	無作為に抽出
調査方法	郵送法による質問調査法。回答は、予め選択肢を用意したほか、一部、記述回答を含む。

【配布・回収数】

配布数	回収数	回収率
2,500	1,281	51.2%

Q. あなたは、あなたが現在住んでいる地域(亀山市または関町)の現状をどのように感じていますか。 [回答者数 = 1281]

満足

- 1位「上水道の安定供給、管理(54.3%)」
- 2位「保健予防対策(52.0%)」
- 3位「ごみ・し尿の収集処理体制(51.1%)」

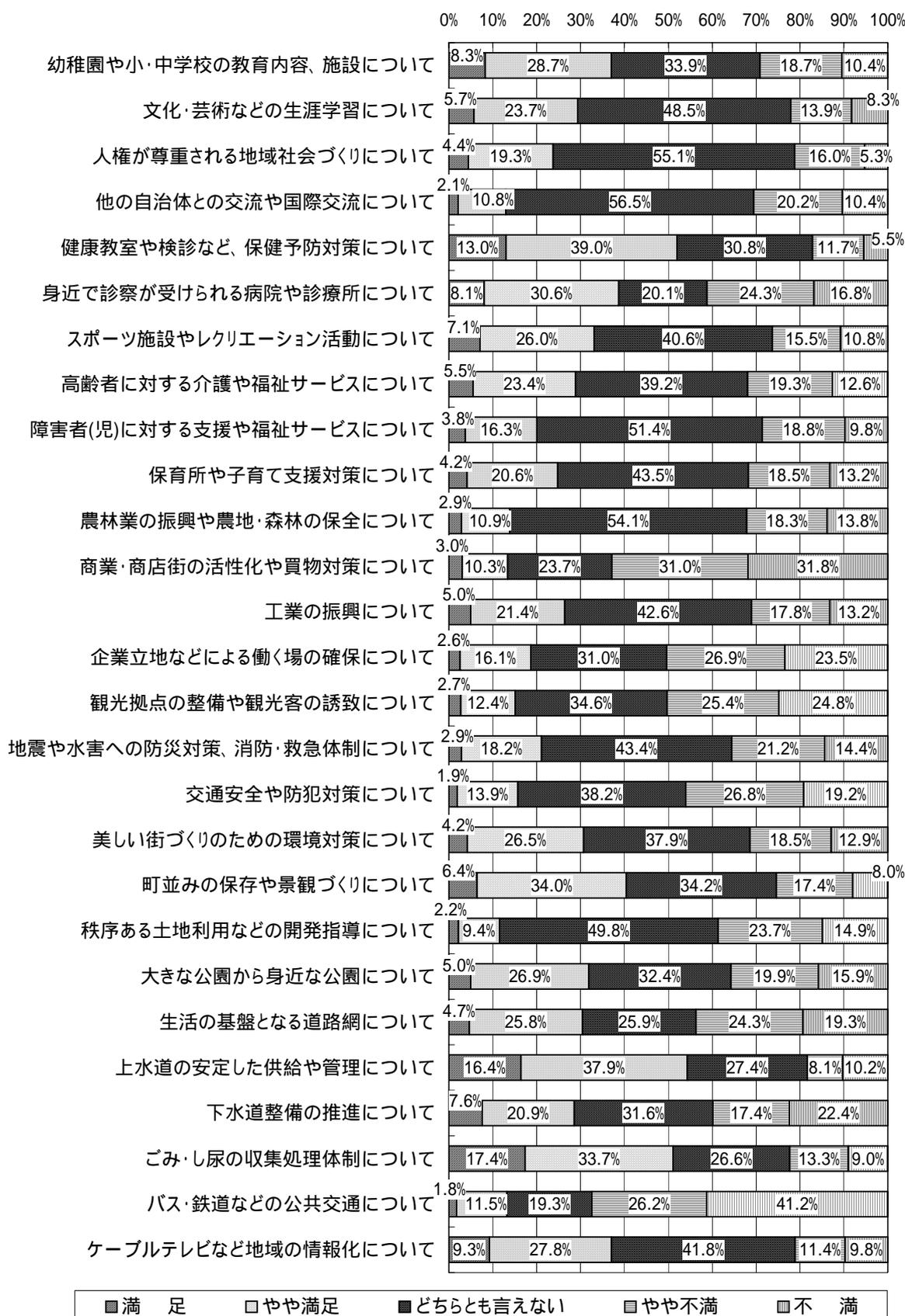
不満

- 1位「公共交通(67.4%)」
- 2位「商業活性化、買い物対策(62.8%)」
- 3位「働く場所の確保(50.4%)」

満足・不満の意見が分かれたもの

「身近な病院、診療所」、「高齢者介護、福祉サービス」、「環境対策」、「大きな公園、身近な公園」

図 3-1 現状の生活環境評価



満足度：「満足」＝5、「やや満足」＝4、「どちらとも言えない」＝3、「やや不満」＝2、「不満」＝1として項目ごとに積算し、その総合得点を各評価人数（わからない、無効回答、無回答を除いた人数）で割り出した人数。

Q. 上の問の項目の中で、新市のまちづくりにおいてとくに重要だと思われる施策は何ですか。
(5つまで)
〔回答者数 = 1281 総回答数 = 6019〕

新市のまちづくりにおいて重要だと思われる施策

- 「高齢者介護や福祉サービス (40.7%)」
- 「公共交通 (39.3%)」
- 「防災対策、消防・救急体制 (37.5%)」

上位施策を年齢別に見ると、「高齢者介護や福祉サービス」では、既に65歳以上の高齢者、もしくは近い将来高齢者となる50歳代以上で高くなっています。「公共交通」、「防災対策、消防・救急体制」、「買い物対策」では40歳代以下の世代で高く、「教育内容、施設」では主に子育て世代の30・40歳代で高くなっています。また、「環境対策」では18～29歳で高くなっており、若年層での環境に対する関心の高さがうかがえます。

図 3-2 新市のまちづくりにおいて重要だと思われる施策

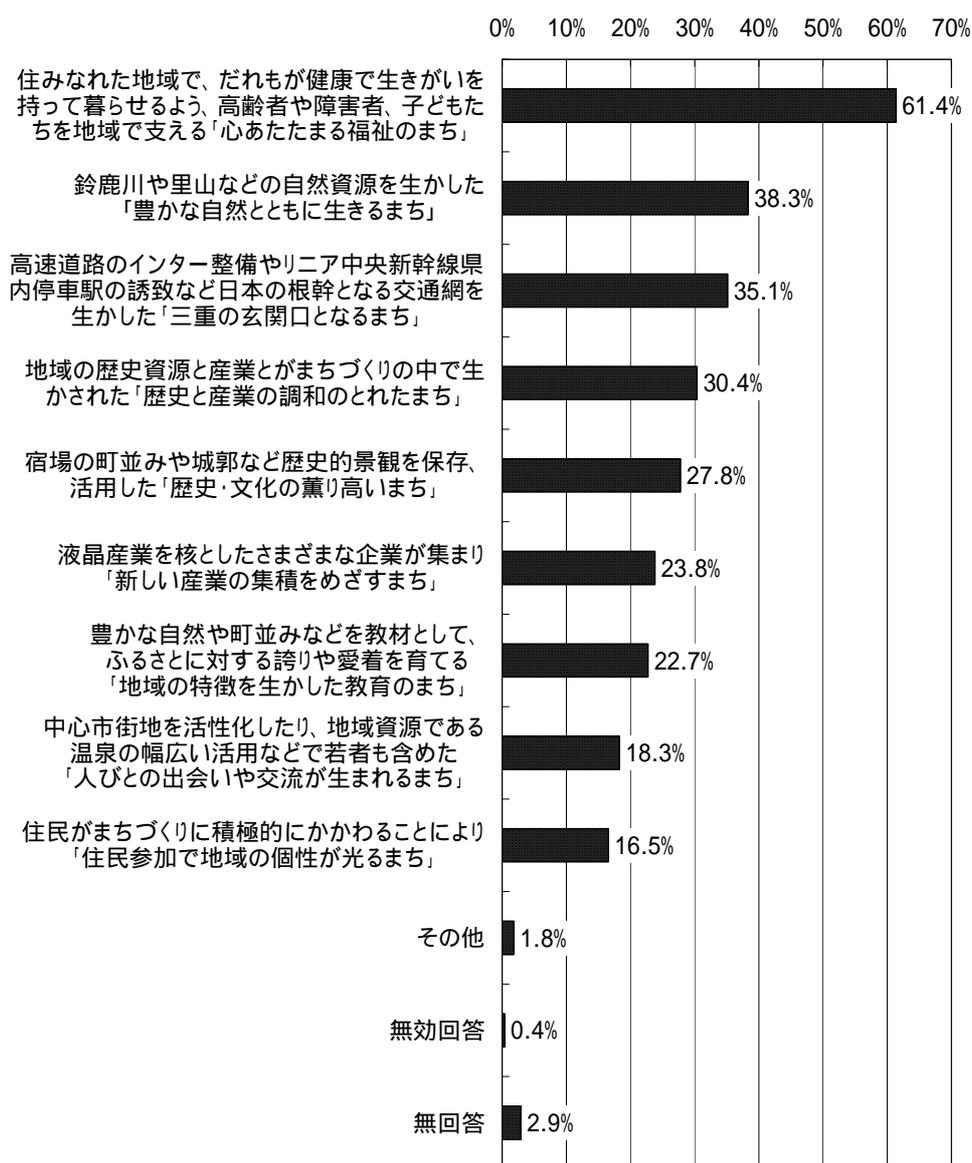


Q. 亀山市と関町が合併する場合、新市はどのようなまちをめざすべきだと思いますか。(3つまで) [回答者数 = 1281 総回答数 = 3579]

新市の将来像

亀山市と関町のめざすべき将来像については、「心あたたまる福祉のまち」が61.4%と最も多く、次いで「豊かな自然とともに生きるまち」が38.3%、「三重の玄関口となるまち」が35.1%、「歴史と産業の調和のとれたまち」が30.4%と続きます。最も多い「心あたたまる福祉のまち」は、他の項目より20ポイント以上高くなっています。

図 3-3 新市が目指すべき将来像



2)「新市まちづくり計画」についての中学生アンケート

新市将来構想の策定において、住民意向調査と同様に、新市のまちづくりに対する住民の意向を把握し、得られた結果を反映することを目的として、将来の新市を担う中学生の皆さまに対してアンケート調査を実施しました。

【調査の方法】

調査対象	亀山中学校、中部中学校、関中学校の3年生全員
調査期間	平成15年5月19日～平成15年6月5日
サンプル数	467人 (亀山中学校175人、中部中学校223人、関中学校69人)
調査方法	学校を通じ配布及び回収を依頼

【配布・回収数】

配布数	回収数	回収率
467	429	91.9%

Q. 亀山市、関町が一緒になって新しいまちになったとき、どのようなまちになっていけばよいと思われますか。(複数回答可)

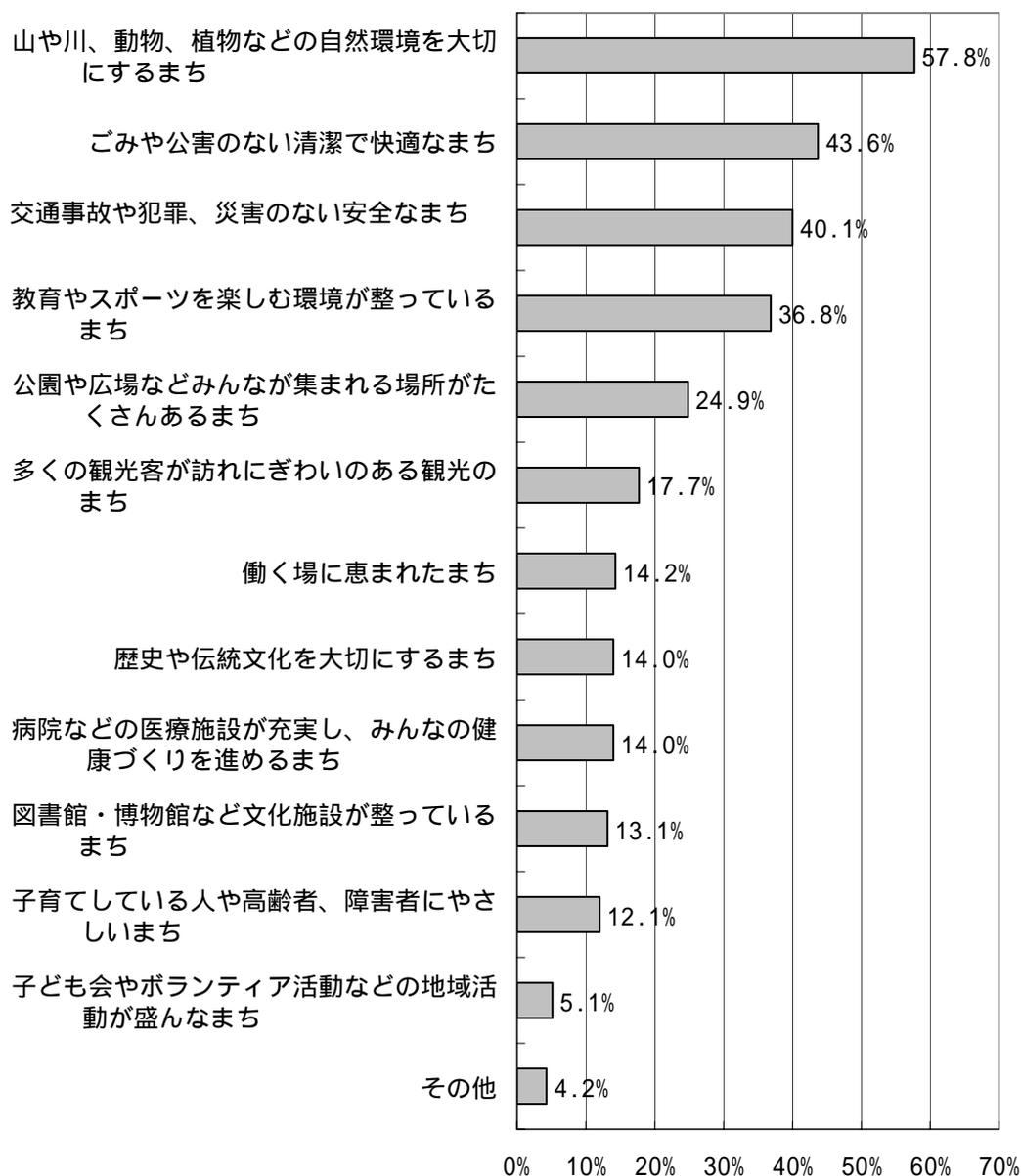
〔回答者数 = 429 総回答数 = 1277〕

新市の将来像

亀山市、関町が一緒になったときに期待することは、「自然環境を大切にすまち」が57.8%と最も多く、次いで「清潔で快適なまち」が43.6%、「交通事故や犯罪、災害のない安全なまち」が40.1%と続いています。

一方、保健・福祉関係については、10%台と低くなっています。

図 3-4 新しいまちが目指すべき将来像



Q. 亀山市、関町が一緒になって新しいまちになったとき、交流を深めるためにどのようなことが必要と思われますか。(複数回答可)

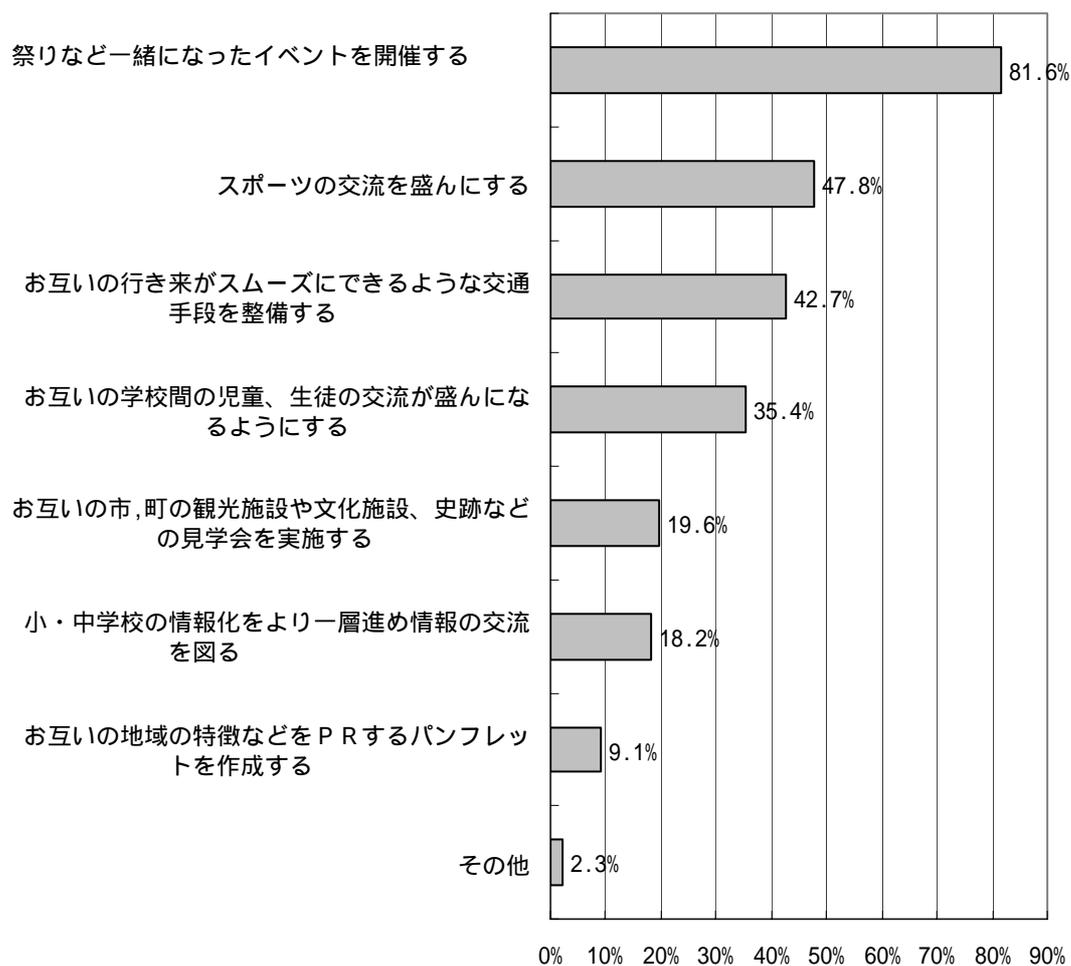
〔回答者数 = 429 総回答数 = 1101〕

亀山市と関町の交流

亀山市、関町が一緒になったときの交流手段として、「祭りなどのイベントでの交流」が81.6%と最も多く、次いで「スポーツでの交流」が47.8%、「交通手段の整備」が42.7%と続いています。

一方「パンフレットでのPR」や「情報での交流」は、低い値となりました。

図 3-5 交流を深めるために必要なこと

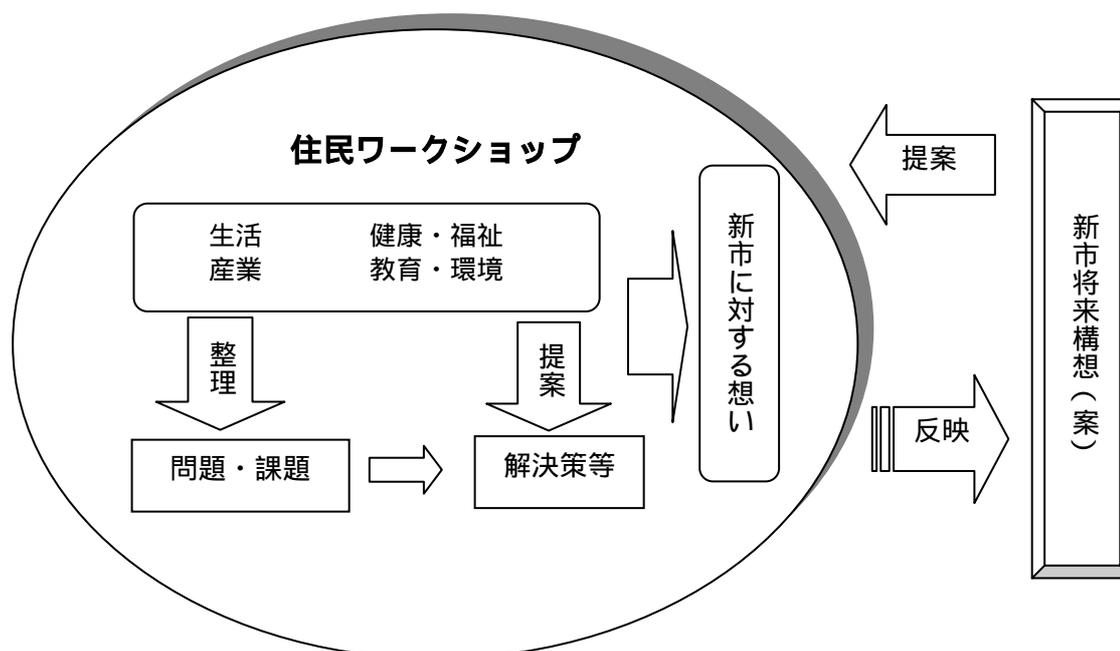


3) 新市将来構想策定懇話会

新市将来構想策定に際し、生活、健康・福祉、産業、教育・環境の分野で専門的な活動を展開されている各団体の代表や担当者の方々に集まっていただき、新市のまちづくりについての課題や問題点、それに対する解決策の提案などをワークショップ形式¹で出し合っていたいただき、取りまとめました。

【プログラム】

14:00～	開会挨拶
14:05～	これまでの合併協議の経過について
14:10～	新市将来構想(素案)について
14:27～	グループワークの説明
14:30～	自己紹介
14:40～	グループワーク 「現在の課題・問題点の整理」
15:00～	グループワーク 「課題・問題点の解決策の提案」
15:20～	グループワーク 「新市に対する想い」
15:40～	休憩・交流タイム
16:00～	発表[3分×6テーブル]
16:20～	全体討議
16:30～	閉会挨拶



1 ワークショップ

地域にかかわる多様な立場の参加者が出し合った意見を整理し、取りまとめて合意形成を図る手法。

【開催状況】

<亀山会場>

日時：平成 15 年 7 月 5 日(土) 14:00~17:00

開催場所：亀山市総合保健福祉センター「あいあい」2階研修室・大会議室

参加人数：45人（生活 22人、健康・福祉 23人）

参加団体：[生活]自治会、婦人会、コミュニティ、消防団体など

[健康・福祉]身体障害者福祉協会、母子寡婦福祉協議会、老人クラブ、保育園母の会など



生活



健康・福祉



<関会場>

日時：平成 15 年 7 月 6 日(日) 14:00~16:40

開催場所：関町民会館 1階多目的室

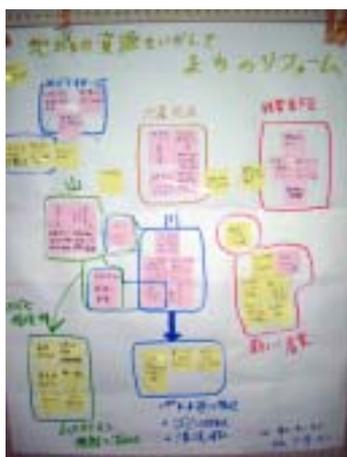
参加人数：42人(産業 22人、教育・環境 20人)

参加団体：[産業] 商工会議所、茶業組合、町並み保存会など

[教育・環境] 関・亀山PTA連合会、体育協会、亀山の自然環境を愛する会など



産業



教育・環境



生活

生活A		安全で安心できる町づくり	
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案	
コミュニティのふれあい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館などの存続 ・ コミュニティ活動 ・ 防犯の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の意識改革 ・ コミュニティ・公民館の充実 ・ 地域で専門の職員を雇う 	
交通問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通の整備が不十分 ・ 高齢者の移動手段の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉バス・コミュニティバスの充実 ・ 地域住民の移送ボランティア 	
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物などが不便 ・ 定住できる環境が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道の整備 	
行政の取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座や移動説明会の開催 ・ 情報公開の徹底 	
生活B		世代をこえて輝くまち	
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案	
商店街の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物が不便 ・ 商店街の空洞化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前商店街の駐車場整備 ・ 亀山大市を月1回開催する ・ みんなが楽しめる商業施設を誘致する 	
まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人が好んで住むまちに ・ 地域の環境整備や福祉の充実 ・ まちづくり活動の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民が意識を高める ・ 亀山のコミュニティを活用する ・ みんなの力がいかせる状況づくり 	
歴史・文化・教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史・文化・史跡等の語り部の減少 ・ 複式学級化、学校区の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 語り部の育成 ・ 学校区の自由化 ・ 高校・大学の新設 	
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通の一体化による便の悪化 ・ 活動範囲が広がり交通費が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通の整備 ・ 公共施設を結ぶバス路線の設置 ・ 高齢化に対応したバス路線拡大 	
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口増加への対応 ・ 広域化に伴う公共施設の分散 ・ 子育て・女性支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間活力の導入 ・ 子育て支援の一本化 ・ 市民と行政の意見・情報交換及び協力 	
生活C		明るく安心な街づくり	
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案	
防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通、防災の対策 ・ 大震災に備えた自主防災制度 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会単位での防災訓練の制度化 ・ 防災マニュアルづくり ・ 情報のスピード化 	
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティの再編 ・ 人づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の防災ボランティアの組織化 ・ 地域が支える安全な居住環境づくり ・ 魅力あるコミュニティ・まちづくり 	
少子・高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校区の問題 ・ 高齢社会での災害時の対応 ・ 非介護認定の高齢者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校区の自由化 ・ 地域移送ボランティアの実施 ・ 高齢者の雇用確保 	
インフラ整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市施設、施設利用料金の平準化 ・ 商業の活性化 ・ 生活基盤の整備が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共料金は安いほうにあわせる ・ インフラの整備 ・ 若者の定住化を促進する 	

健康・福祉

健康・福祉 D 皆が安心して暮らせる街		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
地域への啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者(児)に対する地域の理解 ・ 助け合いの精神の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健常者と障害者の交流の場づくり ・ 意識啓発のため講演会などの支援
障害者(児)に対する医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害児を受け入れる病院が少ない ・ 人工透析用のベッドが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療関係者の理解を促す ・ 地域の病院での受け入れ態勢整備
余暇活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者(児)の余暇活動に選択肢が少ない ・ 長期休暇時の介助が大変 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童館の土日開放 ・ サマースクールの設立、活用 ・ ユニバーサルデザインの公園整備
専門知識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の確保・育成、学校との連携 ・ 障害児の会・ボランティアの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的・定期的な発達支援 ・ 専門家育成のしくみづくり ・ 行政担当者の体制整備
障害者(児)を支えるしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時や短期の入所施設 ・ 障害者の父母の高齢化 ・ 移動介護の受け皿の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援システムの確立(場所、人材) ・ グループホームの開設 ・ 障害者同士が支えあうシステムの構築
雇用支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者の就労支援 ・ 小規模作業所の不足 ・ 一人親の雇用対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模作業所の増設 ・ 通所手段を確保する ・ 一人親の雇用対策
団体の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員数の減少・会費の回収 ・ 役員等の担い手不足 ・ 合併後の団体運営や行政の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両市町の団体の一本化 ・ 他団体との交流促進 ・ 既存団体のネットワーク化
健康・福祉 E 高齢者のパワーが発揮できるまちづくり		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
高齢者の医療対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療施設のサービス向上 ・ 次世代の地域医療を担う人材の不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療巡回バスによる定期的な診察 ・ 痴呆医療施設の充実
生きがいと施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉サービス・助成金の維持 ・ 老人福祉施設の整備 ・ 合併後の活動や予算の地域間格差 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あいあい」に宿泊機能を付加させる ・ 生きがいや仲間づくりのサロン整備 ・ 各地区の老人クラブ交流
介護対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者介護サービスの向上と平準化 ・ 高齢者の就労の場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険の充実 ・ 各地域に在宅介護支援センターを配置
交通網の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀山～関間の JR が不便 ・ 福祉施設等への交通網の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバスの広域化 ・ 介護タクシー助成制度の強化
健康・福祉 F つながり合える仲間づくり		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
情報不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報交換・伝達がうまくいかない ・ 福祉団体の横のつながり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報公開の徹底 ・ 情報交換をスムーズに行う
行政の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政職員の理解が不十分 ・ 行政と住民の協働は理論のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両市町の制度的な違いや温度差を調整 ・ 行政と住民の情報交換・話し合い
保育・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢社会 ・ 働く女性の負担増 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所づきあいによる助け合い ・ 地域間での制度の違いを統一
人材不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動を担う人材が不足している ・ 若いメンバーが入らない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栄養教室の開講・継続 ・ 魅力ある活動を行い、PR する

産業

産業A 自然と歴史を大切に子供と若人に魅力あるまち		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
地元商店街・ 地域産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街の活性化 ・ 空き店舗対策 ・ 地元産業の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者の定住促進 ・ 商店街の駐車場整備 ・ 地域にあった商品開発
地域の個性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町並みの保全 ・ 地域の個性が埋没してしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民自らが支えたらどうか ・ 団体・組織の一本化、ネットワーク化 ・ 観光協会を新設する
行政のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁舎は新築か改築か ・ 新市の名前はどうか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業と農業の担当課を切り分ける ・ 観光化を新設する
定住・子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育料金や施設数はどうか ・ 給食やスクールバスの制度 ・ 地域を結ぶ道路網づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育てのしやすい制度の推進 ・ 国道一号を中心とした道路づくり
産業B 住む人と企業の利便性を基本に考える(仮)		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
都市的機能の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀山駅前がさびれている ・ ビジネスホテル、駐車場が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベント施設の建設 ・ ホテル等の誘致
交通問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路が狭く、標示がわかりにくい ・ 鉄道の本数が少なく不便 ・ 両市町の公共交通が不便 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場、道路の整備 ・ 公共交通の利便性向上
情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 両市町の企業の情報交換 ・ 町並み保存についての理解が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光マップによる効率的な情報発信 ・ 両市町の行政・ボランティアの協働によるパンフレットづくり
生活と観光	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと多くの観光客が来てほしい ・ 観光客用の駐車場が不足 ・ 観光地化に戸惑う住民もいる ・ 一方通行無視やごみのポイ捨て 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活道路と観光道路の分離 ・ 観光客のマナーの向上 ・ 駐車場・道路の整備
産業C 地域の資源をいかしてまちのリフォーム		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
めざすイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三重の中心都市に ・ みどり豊かな観光のまち 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まちのイメージアップにつとめる ・ 国等の補助が必要
地産地消	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全な食品の提供 ・ 農産物の品質確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食に地産地消を取り入れる ・ 生産者の技術向上
山・川	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山林地の利活用 ・ 林業の崩壊、放置林の増加 ・ 鳥獣害 ・ 治山治水 ・ 河川環境の保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境林として整備する ・ 住民の山に対する理解を深める ・ 公費による環境創造事業の推進 ・ 下水道の整備・普及 ・ 清流のPR やごみ回収など美化活動
経営者不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的に厳しく若い担い手が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の経営者となる人材の育成
新しい産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新商品の開発 ・ 地場産品の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職人の技を見直す ・ 生産から消費までの一連の流れが体感できるしくみづくり

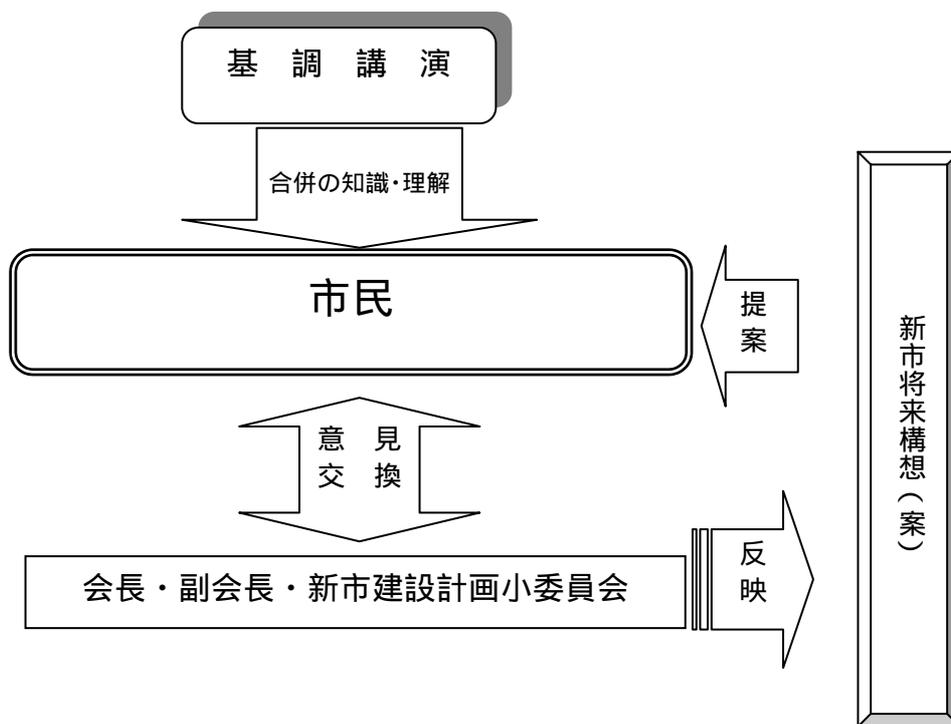
教育・環境

教育・環境D		
ゼロからのスタート		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
地域の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自性をもった事業が少ない ・ 既存組織の形骸化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際レベルのスポーツ大会の開催
組織について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要望や予算のすり合わせ ・ 組織体制・運営方法が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合併を機に話し合っまとめる ・ 要望は地域ごとにまとめた上で調整
高等教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校でのスポーツ活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県への積極的な働きかけ
小・中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童数の減少 ・ 校区の見直し ・ 児童・生徒の移送 ・ 学童保育 ・ 中学校給食 ・ 校舎の設備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市レベルで教員採用 ・ 校区の見直し ・ スクールバスの整備 ・ 学童保育の施設数を増やす ・ 両市町で違うことはよく話し合う ・ 増築ではなく、校舎を新築してほしい
教育・環境E		
亀鈴 = 自然 + 健康		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
人材の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ指導員の不足や高齢化 ・ 少子化によるスポーツ少年団員不足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導員の相互協力と育成 ・ 学校・親の理解・協力
活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予算が少ない ・ 学校行事との重複などの日程調整 ・ 練習・試合など施設の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同団体の話し合いが必要 ・ 新市においては理解と協力 ・ 行政・住民・企業の連携
環境について	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの不法投棄 ・ 企業誘致に伴う自然の保全 ・ 新市におけるごみの分別収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新市には環境部門の担当課を新設 ・ 住民に対する環境意識の啓発 ・ ごみの分別方法の統一
教育・環境F		
自然環境を大切にしたい文化を育むまちづくり		
テーマ	課題・問題点	解決策等の提案
環境学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の環境意識の向上 ・ 自然に関する調査機関がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 将来に向けたボランティアの育成 ・ 企業に対して環境面の指導を行う
水辺環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川・池が生物でいっぱいになりたい ・ 鈴鹿・亀山・関で連携して鈴鹿川を維持していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水辺づくりのための条例を制定 ・ 各自治会によるため池の水抜き ・ 子供が水辺で自由に遊べる環境づくり
行政・市民・企業の連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民活動への行政の参画が不十分 ・ 環境と企業との交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民交流会には行政担当者が入る ・ 学校・父兄・市民による体験型学習 ・ 文化・市民活動への企業の参画
地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域文化の掘り起こし ・ 市民の地域づくりへの参画 ・ 里山・森林の維持・保全 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会と市民団体の連携 ・ 森林間伐を市民の手で行う ・ 市民主体の地域づくりの推進
高齢化・地域間格差	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の移動手段の確保 ・ 行政サービスの地域間格差の発生 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバスの拡大 ・ 坂下、加太地区などにも税金を公平に
文化に対する理解・協力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般市民の文化に対する意識の啓発 ・ 両市町で文化協会への支援体制が異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな文化施設の新設 ・ 行政と対話ができるシステムづくり ・ 両市町の組織の交流・合流

4) 新市将来構想公聴会 ~タウンミーティング~

新市将来構想の素案に対する意見をいただくため、タウンミーティングを亀山市、関町でそれぞれ一回ずつ開催しました。

タウンミーティングの進行は、まず講師の先生にご講演をしていただき、続いて合併協議会事務局から新市将来構想素案を説明して、それに対して会場の参加者からのご意見を伺う形式で進められました。



【開催状況】

<亀山会場>

日 時：平成 15 年 7 月 26 日(土) 13:30～16:00

開催場所：亀山市社会福祉センター 3階集会室

基調講演：講師 昇秀樹 名城大学教授
テーマ「良い合併とまちづくり」

参加人数：88人



<関会場>

日 時：平成 15 年 7 月 27 日(日) 13:30～16:00

開催場所：関町民会館 1階多目的室

基調講演：講師 今川晃 四日市大学教授
テーマ「住民主役の新市まちづくり」

参加人数：42人



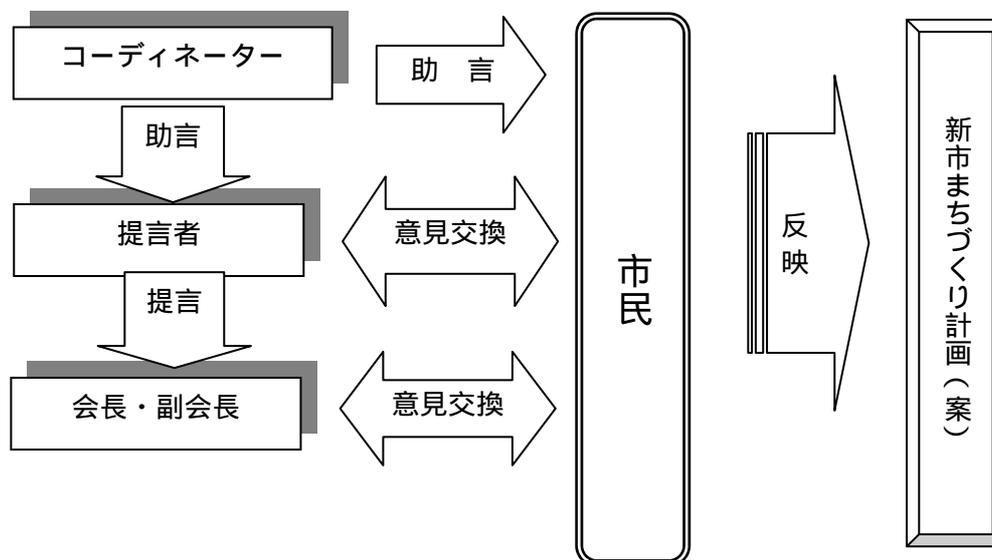
<p>(1) 産業の振興</p>	<p>工業、商業、観光業等、全産業の立地計画。 人材育成に力を入れるべき。それが新産業創出につながると考えられる。 農林業の振興。 農業の振興のため山間部の荒廃田を整備する。 安心、安全の食文化。地場産業で製品のブランド化による食を支えるまち。 地産地消を推進する。 市の商工会をもっと発展させ、商業が活気ある店づくりをして欲しい。 交通の要所を生かしてショッピングセンターを設ける。 もっと買物ができる場所が欲しい。 シャープがなくなったらという場合のことを考えた産業を考えていく必要がある。 クリスタルパレー構想というなら、大学の液晶研究部門を誘致する。 優良企業を積極的に誘致する為の税制の優遇措置を設ける。 シャープや新事業を開発して若者の職場を確保して欲しい。 高齢者の雇用対策も考えて欲しい。 シルバー人材センターの拡充。 新しい産業を積極的に推進し、No. 1の産業をつくるべきだと思う。 中でも若年就労者の育成に何をすべきか研究していくべきである。 地場産業を守り、起業家への支援は重要な施策である。 市外の人が呼べる観光資源の充実。観光協会を中心に、みやげ施設、案内、ハイキングコースを充実させる。 ボランティア活動の推進。</p>
<p>(2) 教育・福祉の充実</p>	<p>学区制を廃し、新市の学校であれば、どこでも入学可能にして欲しい。 小・中学校施設の改築、補修整備。 学校教育に社会人（退職者を含む）を活用する。 少人数学級を実現し子供一人一人を大切に教育。 ゆとり教育はよいが、現実的には競争社会であるから競争を取り入れる。 亀山高校の改革。 送迎バスや給食等、両市町の現在行われているサービス等をそのまま維持して欲しい。 環境を活かした環境教育を行う。 子供たちが自分で考えることができる学習の充実。体験学習など。 児童・生徒の余暇の過ごし方を親子、地域社会が一つになり取り組みやすいものから実施すべきである。 お互いの良い所を取り入れ、地域との交流を大切にしたい、もっとゆとりのある教育。 新市の担い手である青少年が健全に成長できるよう環境づくりを望む。 世代総合の教育の場の創設と文化の交流。 高齢化社会なので、老人学級（いろいろな科目）の開校。 文化教室やスポーツ施設をもっと充実させて欲しい。 関町には図書館がないので、亀山市図書館をもっと充実させて移動式のサービスを行う。 合併後も亀山らしさ、関らしさを残した歴史・文化を後世に継承したい。 関の町並みを残せるような行政上のしくみ（条例など）が必要。 教育と観光の連携による町並み保存。 各地域の過疎化対策として、山間地域で祭り、行事等の再整備を行う。 関町が行っているチャレンジデーを実施する。</p>
<p>(3) 健康福祉の充実</p>	<p>思いやりのある心を育てる施策を望みたい。 自分たちも負担する気持ちで取り組まねば充実しない。 救急医療体制の充実。 地域内医療施設の充実。 現在の各自治体で定期検診が受けられるようにする。 保健、福祉、医療が一体となったサービスの推進を促す。</p>

	<p>健康づくりの指導機会を増やす。 (ウォーキングや温泉、ジム等、健康食品、グッズなどの)健康産業に環境を取り込む。 ハイキングコースを5コースくらい作って欲しい。 特養・老健など高齢者介護施設の充実。 ショートステイやデイサービスなど在宅福祉サービスの充実をはかって欲しい。 障害者に優しい福祉施設の充実。 障害者の雇用問題の解決。 あいあいや医療センターに全ての市民が苦勞なく行ける仕組みが必要と思います。 旧市、旧町の施設を自由に利用できるようにして欲しい。 公共交通機関の整備は福祉問題を大部分解決できる。 身近な交通手段の確保の面から福祉タクシーなどはどうか。 救急小児科医の充実。 福祉医療費助成対象年齢の引き上げ(就学前まで)。 保育園などを増やすなど、とにかく子育てしやすい環境をつくる。</p>
	<p>(4)生活基盤の充実</p>
	<p>生活道路の整備、拡充。 龜山から関線(市民の道づくり)歩道、自動車道、車道。全国でも珍しい道路の建設を! 既設の関-鈴鹿線の道路を早急に改善する。 JRの運行の見直しを働きかける。 JR駅周辺の都市機能の改善。 交通手段の充実。地域内バスの巡回など。 交通弱者への対応(歩道、バス、JR等)。 日常生活に不安のない住環境づくり。 水道用水源の確保。 200~300人収容規模の集会場、各種サークル教室。 運動広場、小公園。</p>
	<p>(5)環境にやさしい社会の形成</p>
	<p>水と空気を美しく保つ努力をする。夏になったら住民が安心して川で遊べるようにする。 鈴鹿川の汚染がこれ以上進まないようにして欲しい。 自然を活かした体験の場と憩いの場の提供。とくに鈴鹿の山々と鈴鹿川の活用。 安心して飲める水を守って欲しい。 ほたるを見ることのできる自然環境の整備。 里山や鈴鹿川の管理をボランティアで行うしくみと行政サポート。 山林業に対する多角的助成。 住民が納得できるゴミ政策を行う。 リユース(再使用) リサイクル(再利用) リデュース(抑制)の構築を目指すこと。 焼却ゴミ施設を充実し、発生するエネルギーを有効に活用したコミュニティセンターの建設促進。 廃棄物処理方法。 リサイクル推進体制。 企業等へのISO14000の認証取得。</p>
	<p>(6)情報化と地域自治の推進</p>
	<p>住民を主体とした自治体活動、公民館活動。 各地区の住民同士の交流。 補助金制度をなくし、NPO方式にする。 コミュニティセンターを含めたコミュニティ体制の早期確立が必要。地域審議会ともリンクさせながら本当に住民の自治の場にしていく必要がある。 防災・防犯、消防、救急体制の強化。 防災等での見直し、災害が起きたときの対策。 ワンストップサービスの提供をして欲しい(各種サービスを一ヶ所一回で出来るように)。 地域住民と市とのミーティングの場を増やす。 タウンミーティングを月一回程度行う。</p>

	ケーブルテレビ、インターネットの普及推進。
(7) その他	
	<p>合併する・しないに関係なく、今まで以上に鈴鹿市との連携を深めていく必要がある。 新市の名前は旧名前にこだわる必要なし。 亀山と関とで共同で催し物を開いたらどうか。 行財政改革を果敢に実行し、リストラを心がけて欲しい。 10万人都市規模の行政コストの実現を目指して欲しい。 議員の任期、定数、報酬については、議員自身のためでなく地域ことを考えたものにして欲しい。それが今回の合併で一番住民の目に見える成果なのではないだろうか。 合併による議員数等を法定数内に留める。 議員定数の削減（新市の定数を26→20に） 在任特例の利用を10ヶ月程度にして秋に選挙を。 本庁舎が亀山市の役場に決定したとの事だが、駐車場が狭いように思う。亀山と関の間くらいに駐車場の広い庁舎はできないのか。 警察官の常駐化。 老人パワーを活用する。 女性パワーを活用する。 亀山・関の両方で多数の事業で予算が赤字になるのではないか。 合併前からの継続事業は住民の負担が合併前より増加しないようにして欲しい（下水道負担金は合併前より増額しない）。</p>

5) 新市のまちづくりを語る会

新市まちづくり計画の策定に向け、具体的な施策アイデアをいただくため、10月に新市のまちづくりを語る会を開催しました。ここでは、亀山市、関町の企業や商工会議所、商工会の代表者など13名を提言者として迎え、分野を越えた様々なご意見をいただきました。



【開催状況】

日 時：平成15年10月5日(土) 13:30~16:00

開催場所：亀山市総合保健福祉センター「あいあい」2階 大会議室

コーディネーター	児玉 克哉 (三重大学助教授)	
提言者	安藤 育子 (亀山市)	大岩 琴子 (関町)
	伊藤 三枝 (亀山市)	大森 文男 (関町)
	市川 利一 (亀山市)	太田 宏生 (関町)
	打田 耕治 (亀山市)	雲 あけ美 (関町)
	岡田 和代 (亀山市)	福島 郁夫 (関町)
	小菅 まみ (亀山市)	
	伊達 亀嘉 (亀山市)	
	山本 佳秀 (亀山市)	



(1) 産業の振興	
農林業の振興	<p> 荒廃した農地を維持するため、市民農園整備を進めて欲しい 地域内で生産された作物は地域で消費することを進めるべきだ 一流品づくりの研究を行い、付加価値が高い農業を進める 直売所、朝市、夕市の販売で地域の活性化を図ってはどうか 農林業に力を入れ、周辺部の特色を生かした政策を立てて欲しい 環境林創造事業を計画的に継続して欲しい 森林技術者の養成は不可欠であり、助成制度を検討して欲しい 森林事業は生活上大切であるので力を注ぎたい </p>
商工業の振興	<p> ドーナツ型の市街地形成により、地域間の格差を小さくする 宿場町として発展したこともあり、ロードサイドビジネスができる道づくりを進めていけばいいのではないか 人口的に見ても、増やせば商業は栄えるだろう 購買力維持可能な商業地域を他市との境界付近に建設する 地場産業から新市ならではの商品を開発し、販売してはどうか 地場産業を PR するような場所の提供を検討して欲しい </p>
新産業の創出	<p> 新しい産業も入れた新市の産業政策を進めて欲しい 企業とまちとの連携が重要であり、雇用・交流が期待できる シャープと市民のまちづくり対話（相談・協議）はどうなっているのか 町並み観光客への心配りと店舗の魅力づくりをして欲しい 亀山・関で一泊できるくらい、観光資源の充実を図ってはどうか </p>
雇用対策	<p> 企業とまちとの連携が重要であり、雇用・交流が期待できる 地元の産業に役立つ若者を育成する高校・大学の教育課程を検討して欲しい 若者から高齢者まで幅広く働ける仕組みをつくって欲しい 優秀な人材を安定して供給できるしくみづくりが望まれる </p>
(2) 教育・福祉の充実	
生涯学習の充実	<p> 男女共同参画社会は形成されてきているが、家庭や地域での男女の役割の固定観念は根深いものがある 男女が平等に安心して働けるまちになって欲しい 文化・保養施設を建設し、少子・高齢化対策する 地域住民と外国人が交流の機会を持ち、理解を深めていくべきである 外国人が住みやすいまちにして欲しい </p>
教育環境の充実	<p> 子育て・教育などの視点からの政策づくりを進めるべき 環境と教育面に力を注ぐべきだ 当たり前なことを当たり前で教える学校教育、まちづくり教育の推進が必要である 複雑な現在社会に対応できる人材を育成する為に、子供の教育は重要だと思ふ 様々なことに負けない人間教育を考えて欲しい 小学校を移転し広々とした環境のよい場所で教育してはどうか 家庭・学校・地域が一体となって子育てすることが重要だ 個性を伸ばす少人数学級の実現を望む 亀山市として独自性のある教育づくりを進めて欲しい 個性や能力を伸ばす教育を学校ごとに行う 道徳教育を推進し、体験学習を実施してはどうか 楽しく学びやすい環境をつくらなくてはならない 地元の産業に役立つ若者を育成する高校・大学の教育課程を検討して欲しい 子供が学校を選べる、特色のある経営感覚を持った学校を作ることも必要ではないか 人生経験をつんだ人を教師として採用するべきだ </p>

	<p>教育委員会、先生の質の向上が問われている 市町、各課員、議員、先生に危機感がないのではないか 先生の質はこのままで良いのか 子供を育成する事が重要なので、もっと多くの方々の提言が欲しい</p>
青少年の健全育成	<p>思いやりある人間を育てられる町に、まちづくりはその後に自然についてくると思う</p>
地域文化の創造	<p>歴史文化は重要だと思う 関宿納涼花火大会を新市の目玉として続けて欲しい 関の山車など、お祭りやイベントを通して活性化を図ってはどうか 祭りなどを通して地域への愛着を深めることが重要である</p>
(3) 健康福祉の充実	
高齢者・障害者福祉の充実	<p>高齢者の移動手段の確保が必要ではないか</p>
児童福祉・子育て支援の充実	<p>子育て・教育などの視点からの政策づくりを進めるべき 移住者（転入者）を増やすため子育て支援を充実して欲しい 働いていても、仕事と子育ての両立は大変不安に思う 託児所や保育所等の土・日曜保育などを充実して欲しい 若い親の子育ての不安を取り除く相談などを進めてはどうか 学童保育を充実してほしい 小児科の救急医療体制が整っていないので、整備して欲しい</p>
健康づくり対策の充実	<p>文化・保養施設を建設し、少子・高齢化対策する</p>
(4) 生活基盤の充実	
交通システムの整備	<p>高齢者の移動手段の確保が必要ではないか ボランティアによる輸送サービスができるようにしていきたい 通学バス・さわやか号を循環にして交通事故、車公害を減らす 小さなバスやバンによる、よりキメの細かい公共交通の整備を進めて欲しい コミュニティバスは市内を走る憩いの場としての役割もある 自家用車による通学、駅への通勤をしなくてもよいようにする 亀山駅が中心となれば行政施設の利用も便利になるのでは</p>
道路ネットワークの整備	<p>シャープの移転により国道1号や名阪国道周辺の渋滞が予想されるので対応策をとらなくてはいけない 亀山市は交通要所であるので整備が必要 亀山-関線を整備して、自動車、自転車、歩行者が行き来する道をつくって欲しい</p>
町並みの保全と活用	<p>町並み観光客への心配りと店舗の魅力づくりをして欲しい</p>
良好な居住環境の整備	<p>子どもたちが住み続けたいと思うまちづくりを進めて欲しい 少子化の視点から、今後も定住化を促進するべきである 先住・移住者が交じり合う都市づくりを進めて欲しい 亀山駅前の再開発に伴う駅ビル、店舗、バスターミナルなどを合併の目玉にしてよいのか検討するべきである 関町がしている土地の条件付値下げを継続して欲しい</p>
防災・防犯対策の推進	<p>最近の犯罪は外国人による犯罪が増えている 高速道路を使った都会からの犯罪も増えている防犯対策についても意見交換をしなくてはならない 経済的に潤ったとしても、幼児虐待や少年犯罪等が横行する町では何の魅力もない</p>
公共施設の整備	<p>新市に相応しい新庁舎を便利な場所に建設して欲しい 各地域の中心となる市分舎を建ててはどうか</p>

(5) 環境にやさしい社会の形成	
環境美化対策	ディーゼル車の排ガス規制による公害の防止を進めるべきである 道端のごみのポイ捨てをきれいにするため、地域単位で美化コンクールをしてはどうか
循環型社会の形成	できるだけ分別を行い、リサイクルを進めるべきだ 環境と教育面に力を注ぐべきだ
自然環境の保全と活用	森林維持のため川下から川上へと財源を捻出するしくみを検討して欲しい 豊かな鈴鹿川自然環境をいかしての河川敷に憩いの場をつくる
(6) 情報化と地域自治の推進	
情報の共有化と行政改革の推進	合併効果の検証を行う必要があるのではないか 住民票、戸籍謄本は、各分舎で取れるようにする 市民と行政がお互いに「要求・文句・不平不満・責任転嫁」ばかり言っていてはだめ 行政職員に「まちづくりへの想い」を高めて欲しい 亀山市の行政は実績もなく、ただの住む地域で終わっている 行政は何でも「中途半端」である 行政を遂行する人達の対価が不公平である 亀山市当局はPR不足、PR下手である
地域内分権とコミュニティの形成	市民参画型のまちづくり団体をネットワーク化して協力し合う体制をつくるべきである 市民もまちづくりに対する意識を高めなければならない コミュニティ単位の意見を収集し、各地区単位の特色あるまちづくりを進めて欲しい 中心部だけでなく、周辺部も忘れて欲しくない 合併について縦、横の連携を強化していかなくてはならない 住民、行政ともに本気になってまちづくりに取り組まなければならない
(7) その他	
キャッチコピー	亀山市～私が汗を流します～ (キーワード：汗 協働、健康、きらきら、きらめき) 汗をかくまち亀山市 よく遊び、よく学び、よく汗をかく亀山市
その他	会議の時間が短いので、複数回開催してはどうか HP等の情報公開では合併協の児玉先生事務局に感謝

: 再掲